

別紙

省エネのための取組項目と取組内容の記載例

分類	番号	取組項目	取組内容の記載例 ※以下の内容は例ですので、操業する漁業種類に応じて省エネ計画書にご記入下さい。
航行・操業方法の工夫	1	減速航行	<ul style="list-style-type: none"> ・航行速度を1ノット以上減速する ・エンジンの回転数を2,000から1,800へ下げる ・出漁時間を〇分早めて、漁場まで減速航行する
	2	出漁日数の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・定期休漁日を週休1日から2日へ増やす ・出漁日数を22日/月から20日/月へ減らす ・出漁日数を2日/月減らす
	3	航行距離の短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠港をA港から漁場近くのB漁港へ移すことで航走距離を約〇割削減 ・漁場をA沖から近場のB沖へ変更することで、航走距離を約〇割削減
	4	操業時間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・曳網時間を7時間から6.5時間へ短縮する ・曳網回数を10回から9回へ減らす
	5	集魚灯の点灯時間短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・集魚灯の点灯時間を5時間から4時間に短縮する
経営形態の効率化	6	船団規模の縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・船団構成を8隻から6隻へ減らす
	7	協業化	<ul style="list-style-type: none"> ・他の5経営体と魚群探査を共同化する ・他の2営体と運搬船を共同運航し、3経営体で5隻から3隻体制とする ・他の2経営体とノリ乾燥機を共同運用する ・他の4経営体とノリ刈り取り船を共同運用する
船体の手入れ等	8	船体の清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・船底、プロペラ、舵の清掃を1回/年から2回/年へ増やす
	9	積載物の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・満タン給油をやめ、燃料タンク半分までの給油とする ・使用しない漁具等(約〇kg)を降ろす
既存の調整	10	冷却機の運転効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・活餌の飼育水温を15℃から20℃へ引上げる(遠洋かつお船) ・インバーター導入による冷凍機器等の効率化
	11	集魚灯の光力低減	<ul style="list-style-type: none"> ・集魚灯を一部撤去し、光力を180kwから160kwへ減らす
省エネ漁具の導入等	12	漁船の船形改良	<ul style="list-style-type: none"> ・使用漁船を〇tから〇tへ小型化する ・省エネ効果のある船形へ改良(注:省エネ効果が検証可能な資料も準備が必要です)
	13	LED集魚灯の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・メタルハライド集魚灯の〇割をLED集魚灯に入替える
	14	機関換装	<ul style="list-style-type: none"> ・主機関を省エネ型エンジンである△△へ換装する(注:省エネ型とは漁船用環境高度二次対応機関型式認定基準、あるいは、同等の基準を有する機関) ・80馬力のエンジンを60馬力のものへ換装する
	15	エネルギー効率の高い乾燥機・ボイラー等の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ型ノリ乾燥機の導入 ・省エネ型ボイラーの導入
	16	改良漁具の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・曳網漁業の漁網の素材を変更や目合いの拡大等による低抵抗化
陸上養殖の効率化	17	漁具の規模縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・漁具の規模(網丈、長さ、個数)を〇から〇へ縮小する
	18	ボイラーの運転抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育水温を28℃から26℃へ引き下げる
	19	施設内水槽等の保温	<ul style="list-style-type: none"> ・水槽・配管を気泡緩衝材で被覆する ・水槽に気泡緩衝材の蓋をする
	20	熱交換器の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・熱交換装置を導入し、飼育排水から廃熱を回収する
	21	養殖手法の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖循環システムを導入する
	22	その他	